

池上先生の細やかな配慮と「何でも勉強だ」

藤 田 進

生涯現役でおられた池上先生がご逝去されて三年が経とうとしています。じねんじょ会発足以来いろいろと丁寧にご指導いただき本当にありがとうございました。これまでの四十年余の間には数々の思い出がありますが、特に分布図集等の拙い原稿を微にいり細にわたって細やかな校正をしていただき、意味の通る文章にしてもらったことは忘れることのできない思い出となっています。ありがとうございました。

また、私が安塚高校松之山分校へ赴任する時には、先生が以前に松之山地区で採集されたものを纏められた小冊子と、大井次郎著「日本植物誌」の奥付きにある写真のコシジシモツケソウは松之山町で採集されたもので、原標本になっている。採集者は相沢剛一（タケイチ）という人で、関係者が居られたら採集地がどこかわかるだろうか。というようなメモをいただいたことがあります。

当時の松之山町は町制施行三十周年を前にしていろいろな準備がなされており、その1つに自然を主体にするパンフレットの作成が計画されていた。関係者に面会し、松之山町で採集されたコシジシモツケソウという植物が原標本になっていることから、町にとっても貴重な植物であることを説き、是非パンフレットに載せてほしいと依頼した。できあがったカラー刷りのパンフレットには小さいながらコシジシモツケソウが載っていたのを見た時に、池上先生の思いの1つを達することができた思いであった。

採集者である相沢剛一の関係者は意外にも当松之山分校で非常勤講師をされている相沢龍子先生であった。剛一氏は十日町市水梨（旧松之山町）出身で、広島高等師範を卒業されて教職に就かれ、各地で活躍された最後に京都の初

音小学校長で退職されたという。相沢龍子先生はお孫さんになる方で、十日町市小谷（旧松之山町）で在住されており、コシジシモツケソウが何処で採集されたかは分からないとのことであった。

それにしても、関係者があまりにも身近な所におられたのには驚かされた。と同時に池上先生から示唆されたコシジシモツケソウを仲立ちとして、町の方々と今でも続く人間関係を大切にしていきたいと思っています。

じねんじょ会での植物観察会では毎晩が勉強会である。教材は共同準備と個人持ち込みの両方が用意される。これがなかなかの難題で、一晩かけても解決できないことがよくある。このような時には朝食当番が朝寝をし、手抜き準備ということで周りの葉や笹の新芽を入れたみそ汁を作ったりした。池上先生はそのみそ汁をすすりながら平然と「何でも勉強だ」と言われたのを思い出します。この言葉はいろいろな場面にも使われており、採集時に「これは大きな葉だな、採るか」と言うと、「ああ、何でも勉強だ」という具合です。

人間は一生が勉強の連続であると言われますが、「何でも勉強だ」の言葉は年を重ねるにつれて味わい深い意味を持つように思われる。特に植物観察では1つの種でも各地で採集した標本を比較してみると、葉の大小をはじめ各所で微妙な差違が認められたり、同一種と思ったものが他の種であったりすることがある。途中で採ったからこのものはいらぬと言うのではなく、「何でも勉強だ」の心がけが如何に大事であるかが理解出来るようになってきた今日この頃です。

池上先生の思い出・・・焼山笹倉温泉道

田 所 清

私がじねんじょ会に加入させて頂いたのは30年くらい前の事。それ以来、永きに渡って指導を受けたこととなります。調査会の現場ばかりでなく、総会等での講演などで実に多くの知識を与えていただき、深く感謝をしている一人です。

しかし、ご一緒した調査会はある程度の回数になるとは思いますが、出来の悪い会員ゆえ、私も控えていたせいもあって、直接的な指導助言を頂いた機会はそれほど多くはありませんでした。ましてや、世間話的な会話を交わしたことは皆無に等しいものです。深い見識を持たれている威厳と近寄りたがたい雰囲気を感じながら、少し離れたとこ

ろから先生を慕っていた一人でした。

いくつかの思い出の中から、1981年夏合宿に糸魚川市の焼山笹倉温泉道に調査に入ったときの思い出を綴ってみました。すでに20年以上昔のこととなります。

焼山は7年前の1974年に噴火をして、暫くの間入山禁止になっていました。このときの調査は山が落ち着き、入山禁止の措置が解除されて初めてのものではないかと思われまます。記録によると、調査日：1981年8月4日～10日。参加者：池上、尾崎、石沢、藤田、堀、小林（浩）、牧野、水沢、西山（邦）、白崎、関（省）、関（繁）、坪谷、山崎、田所の15名となっています。